

英法 Legal Jargon の中世仏語起源について(2)

保谷一三

英法用語がどことなく英語らしく感じられないことについて、本学紀要第4巻、89-98頁(1987年)で、その語源をたどることによって究明した。そこで扱ったのは、John Pritchard 著 *The Penguin Guide to the Law*, second edition, 1985の附録 Legal Jargon: An A-Z Guide 中の単純語(ただし合成語も含む。)133語のうち、はじめの66語であった。今回は残りの67語を扱った。結論は前回と同じく、Anglo-Frenchが従来明かされた以上に多く関与しているということである。なお、角括弧でくくった訳語については、前回と同じく、有斐閣英米法辞典(初版22刷昭和62年)を参照したことをお断りしておく。

キーワード: 英法、Legal Jargon、中世仏語

67. infant 「未成年者」

英国では18才未満を指し、minorともいう。ラテン語 *infans* は “unable to speak” を意味するので、フランス語でも、思春期前の子供を意味する。未成年者は専ら *mineur* という。ところが Stone と Rothwell によると、Anglo-French では… *un enfant* (*infant* の別綴り) *deynz age* (未成年者) という。これが法律用語である。もちろん *enfance*, *enfantage*, *enfantesce* はすべて “childhood” を表わす。従って法律においてだけ、語源に合わない使い方をしていることになる。

68. information 「略式起訴」

この起訴は軽罪の事件を対象とし、大陪審が裁判所に起訴状案を提出する *indictment* (正式起訴) と区別される。警察が軽罪の起訴状案を下級判事に提出する、この行為を *inform* という動詞で表すところから、この名詞が存在する。しかし、起訴が略式であることとの関連がいかにも薄い。仏法では、*information* は予審の意味で使う。意味的に無理がない。

69. injunction 「強制命令又は禁止(差止)命令」

山梨医科大学英語

(受付: 昭和63年8月29日)

OEDによると、命令という一般義で1526年初出、法律用語として1533-4年初出である。仏法では *injonction* が1296年にすでに強制命令の意味をもっている。⁴⁾

70. interim 「仮の、臨時の」

もとラテン語の副詞であるが、*interim order* (仮命令) のように形容詞的に使う。OEDによると、この語の形容詞用法は1604年初出で、法律用語としては1858年初出である。語形を尊重するフランス語は1796年に *interiminaire* という形容詞を作った。

71. interlocutory 「中間の」

interlocutory decree (中間判決) のように使う。仏法では1283年から、中間判決に用いており、英法では1590年初出、一般義はそのあと1597年初出となっている。⁵⁾ 語源的に *interloqui* “speak between” でびったりである。

72. interrogatories pl. 「質問書」

裁判の当事者間で交す文書である。OEDによれば、英法において1533年初出、一般義で1827年初出である。仏法では1327年から、訊問の意味で使う。⁶⁾ この方が自然な使い方である。

73.intervener「訴訟参加人」

一般に離婚訴訟において、姦通の相手方として申し立てられた女が、その申し立てを否定する目的で参加する場合をいう。⁷⁾ OEDによれば、法律用語として1854年初出で、その前に1621年に一般義で初出している。仏法では1606年に初出している。

74.intestate「無遺言で」

ラテン語intestatusのフランス語intestatに由来する。仏法では1200年ころの初出で、Il est décédé intestat. (彼は無遺言で死亡した。) のように使う。⁸⁾ AFにもintestatがある。OEDによれば、英法初出は1377年である。

75.issue「子孫」

OF issirの過去分詞の女性形である。フランス語ではissu(e)は“...から生まれた”の意を表わす。しかし名詞issueに子孫の意味はない。子孫はdescendant(e)で表わす。ところがAFにはissue “heir” の意味がある。¹⁰⁾ OEDによればこの英法用語は1377年初出で、その後 “going” という一般義が1382年に初出している。

76.jurat「宣誓供述書の結びの句」

ラテン語juratum est “誓った”の圧縮である。AFにjurate, jurratの形で存在するが、仏法と同じく治安判事を意味する。OEDによれば、英法初出は1796年である。

77.jurisdiction「管轄権」

仏法では《pouvoir, droit de rendre justice》の意で1209年初出、¹¹⁾その後《ressort ou limite du territoire où s'exerce ce pouvoir》の意をもっている。OEDによれば、“legal power to hear and determine a cause...”の意で1267年に仏文で初出し、“the extent or range of judicial power”の意で1380年に初出している。

78.kin「血族」

OE cynに由来する純英語である。OEDによれば、825年ころの初出である。

79.laches「懈怠」

裁判所の認定する相当の期間を過ぎることを言う。AF laschesce, lach-が法律用語として用いられている。¹²⁾ OEDによれば、“negligence in the performance of any legal duty”の意で1574年初出である。仏語にはlatchetéがあるが、法律用語ではない。

80.land「土地(家屋も含む)」

OE由来の語である。OEDによれば、900年ころの初出である。AFのland, -e, laund(e)は“wood; pasture”の意で同一ではない。仏語にもlandeがあるが、荒野の意で同一ではない。

81.leasehold「(99年などの)定期賃借権」

OEDによれば、freeholdにならって作られた人工語である。“a tenure by lease”の意で、1720年初出である。leaseはOF laissier, AF lesser, la(i)sserに由来する仏語であるが、holdは英語である。

82.legacy「動産の遺贈」

AFにlegacieがある。ラテン語legare “send, bequeath”の名詞である。「おくる」という意味が基本にある。OEDによれば、“a sum of money, or a specified article given to another by will”の意で1460年ころの初出である。仏法ではlegsであるが、これはlaisserの名詞laisをもととし、ラテン語legatum (遺贈)をミックスした形である。¹³⁾

83.legitimation「嫡出とすること」

OEDによれば、英法義は1460年初出、一般義は1660年の初出である。仏法ではla légitimation d'un enfantという使い方は1340年初出である。AFでも法律用語である。¹⁴⁾

84.lessee「賃借人」

OF laissier, AF lesser “lease”の過去分詞に由来する。OEDによれば、1481年に仏文初出、1495年に英文初出である。仏法ではlocataireという。

85.lessor「賃借人」

AF lessur, -ourに由来する。¹⁵⁾ OEDによれば、1278年仏文初出、1481年までに英文初出である。仏法ではbailleurという。

86. lien 「留置権」

OF *lier* の名詞である。OEDによれば、“a right to detain possession of property... until a debt due... to the person detaining it is satisfied”の意で1531年初出である。AFでも *lien* はあるが、一般的な“bond”の意である。

87. limitation 「出訴期限」

AFに法律用語として *limitation* “period specified by statute”がある。OEDによれば、一般義は1380年初出、“an assignment of space or time, within which he will sue...”の意で1641年初出である。フランス語の *limitation* (1322年初出)には一般義しかない。

88. liquidator 「清算人」

OEDによれば、1858年初出である。仏法には *liquidateur* (1777年初出)がある。

89. mandamus 「職務執行令状」

ラテン語で “we enjoin” の意。OEDによれば、1378年仏文に初出、1535年英文に初出している。

90. master 「主事」

上級裁判所で中間訴訟手続きを行う職員。¹⁶⁾ OEDによると、OEないしOFを経由したラテン語は、一般義で1000年ころ初出、“legal functionary”の意で1425年初出である。AF *mester*, *maestre*, *ma(i)stre*にも法律用語があり、“master in chancery” (大宮庁主事)の意がある。仏法でも1460年初出で、《*titre donné aux avocats, aux gens de loi*》《*notaires, huissiers, etc.*》の用法がある。

91. messuage 「家屋」

附属庭地も含む。¹⁷⁾ OEDによれば、AF *mes(s)uage* に由来し、1290年仏文初出、1386年ころ英文に初出している。この語のもととは *maison*, *maisonage* であるが、*n*が脱落した。StoneとRothwellによると、*le termer edefia beu mesuage en cele tere*. (この特定期勤人はこの地に美しい住宅を建てた。)という文例がある。¹⁸⁾

92. misdemeanour 「軽罪」

mis-と *demeanour* から成る。OEDによれば、1487

年に法律用語として初出し、1494年に一般義で初出している。語形的にはAFであるが、StoneとRothwellには記載がない。仏法では *contravention* とか *délit* という。

93. misfeasance 「失当な行為」

OEDによれば、OF *mesfaisance* に由来し、法律用語として1596年に初出している。AFにも *mesfaisance*, *mis*-があり、“wrongdoing”を表わす。²⁰⁾

94. moiety 「半分」

OEDによれば、OF *moite*, *moitié* に由来し、1444年に法律用語として初出し、1475年ころ一般義で初出している。しかしAFにも *meité*, *moité* があり、法律用語としても使われている。²¹⁾

95. mortgage 「譲渡抵当」

ローマ法の *mortuum vadium* (死質)の変形である。*gage* はフランク語 **waddi* から入った俗ラテン語 **wadium* の変音で、11世紀末にフランス語となった。借金の抵当として不動産を譲渡するこの重要な制度は古代からのもので、仏法では *mort-gage* が1283年初出であり、英法では1475年初出である。²²⁾

96. naturalization 「帰化」

フランス語 *naturaliser* の初出は1471年で、²⁴⁾ その名詞形 *naturalisation* は16世紀半ばである。²⁵⁾ AFでは形容詞 *naturel* に“native”の意があるが、動詞形がない。²⁶⁾ OEDによると、英法では1578年初出で、一般義は後れて1747年の初出である。

97. option 「買受権」

ラテン語 *optare* “choose” のフランス語形 *opter* の名詞である。Dauzatによれば、12世紀末に初出している。OEDによれば、1604年に一般義で初出し、1755年に英法に初出している。

98. parol 「非公式契約」

従来は口頭契約のことを言った。OF *parole* の意味が“word”であるから、当然である。AFにはこの種の意味用法がない。²⁷⁾ OEDによれば、英法には1377年に初出し、一般義では1616年に初出している。

99. plaintiff 「原告」

語源はOF *plaindre*, AF *pleindre*, *plai-*で、苦情を申し立てることを意味する。これはその動詞の形容詞形である。フランス語では1130年初出であるが、1225年には現在分詞形 *plaignant* が法律用語となった。²⁸⁾ AFでも *pleinant* が法律用語としてあるが、²⁹⁾ 英法では形容詞形が1278年に仏文に初出し、1400年までに英文に初出している。

100. pleadings *pl.* 「訴答書面」

民事訴訟において両当事者が相互に交換する。もとの動詞 *plead* はOF *plaidier*, AF *plaider* に由来し、訴えることを意味する。英法では1531年に *pleading* が初出している。上の *pl.* 形は相互に交換するため、そうになっている。

101. polygamy 「重婚」

lexis によれば、仏法では1558年に初出している。OEDによると、英法では1591年までに初出している。

102. portion 「分与産」

親から長男以外の子に与える。ラテン語 *portio* に由来し、フランス語には1160年に初出するが、法律用語ではない。しかし *portionnaire* (分与産を請求できる人) は1829年に法律用語となっている。³⁰⁾ OEDによれば、1300年までに一般義で英語に初出し、1340年に英法用語として初出している。

103. premium 「賃貸借の権利金」

ラテン語で *prae-* と *emium* から成る。*em-* は “take” の意、従って人より先に、あるいは人より有利に得るものを表わす。権利金は賃貸料に加えて入ってくるものなので、該当するということである。OEDによれば、“a sum additional to price” の意で1695年に初出している。

104. prescription 「取得時効」

これは “limitation of time” の意で使う。OEDによれば、英法では1292年仏文初出、1474年英文初出である。仏法では1260年ころの初出である。³¹⁾ StoneとRothwellによれば、AFでも法律用語となっている。

105. privacy 「プライバシー」

ラテン語 *privatus* の名詞であるが、ラテン語自体には名詞形はなく、OF, AF *privé* ではじめて *privauté*, *priveté* の名詞をもつ。しかし英語の *privacy* はその系統ではなく、*-atus* → *-atia* → *-acy* の一般的な流れを考えた人造語である。

さて、ラテン語 *privatus* は、公職につかない、一市民である、の意しかもたない。Lewisはキケロの *vita privata et quieta* (Sen. 7, 22) を “a private life, withdrawn from State affairs” と釈義している。これに反してフランス語ではOF *privé* (1100年初出) がすでに《*où le public n'a pas accès*》の意をもち、³²⁾ 名詞形 *privauté* は13世紀初めに《*affaire privée*》の意をもっている。³³⁾ 従って、「公から離れて」から、「公を入れない」というふうに向きが変わっている。StoneとRothwellによると、AFの文例として、*bons ministres, qi doivent faire execucion, auxibien des privetez le Roi come d'autres choses.* (Stats I 258) (よき大臣はほかのこと同様王の私事も司らねばならない。) がある。このように公権力の代表者である王にもプライバシーが考えられている。OEDによれば、英語で “absence of publicity” の意は1598年Shakespeareに初出している。³⁴⁾

106. prohibition 「禁止令状」

上位裁判所が下位裁判所に管轄権がないことを理由として事件処理を禁止するため送る。この名詞は1200年ころフランス語に初出し、OEDによれば、1312年仏文に初出、1548年英文に初出している。StoneとRothwellによると、AFには法律用語として “writ of prohibition” がある。

107. purchaser 「土地譲受人」

賃借人などのことを言う。もとの動詞はOFの *porchacier* (1080年初出) である。人を表わす名詞形はフランス語では *pourchasseur* の形で1300年ころ初出し、*Les pourchasseurs d'héritages* (遺産狙い) のようにいい意味ではない。追跡するという原義があるためである。AFにも *purchaſur*, *purchacer* がある。OEDによれば、*purchase* は「譲受ける」の正式な動詞となっている。

108. recognizance 「誓約(金)」

OFの動詞reconoistre, 名詞はreconnaissanceで1080年初出である。英法では1386年ころChaucerで初出している。³⁶⁾

109. relator 「犯罪通報者、告発者」

フランス語の動詞relaterは1340年初出で、《raconter d'une manière précise》を表わす。³⁷⁾これは先ず法律用語として使われた。³⁸⁾OEDによれば、relatorは“narrator”という一般義で1613年に初出している。

110. remainder 「残余権」

Aの生涯権はAが死亡するとBの残余権となる。OFにremaindreという動詞がある。OEDによれば、AF remainderに由来し、1424年初出で英法用語となった。

111. rentcharge 「地代負担」

OF rente(1190年初出、eを落した形は1308年初出)とOF charge(1100年初出)の合成語である。OEDによれば、1443年に英法に初出している。

112. replevin 「動産取戻」

OEDによれば、AF replevin(e)に由来し、英法では1347-8年仏文に初出、1461年英文初出である。OF, AF replevinは13世紀初出で《protéger, défendre》の意をもつ。³⁹⁾

113. requisition 「権限質疑書」

土地買受人の事務弁護士が売主の事務弁護士に出す。もとの動詞はOF requerreで、11世紀の初出で、すでに《réclamer par voie judiciaire》の意をもつ。名詞requisitionは1160年に初出している。OEDによれば、英語ではthe action of requiringの意で1503年初出である。

114. reversion 「復帰権」

将来不動産権の一で、貸地が帰ってくることについて言う。もとの動詞はOF reverserで1150年の初出、名詞も12世紀の初出である。⁴⁰⁾lexisによれば、reversionは仏法用語としては1304年初出である。OEDによれば、英法では1442年初出である。

115. riparian 「河岸の」

ラテン語ripaの形容詞で、そのもとはripariusであった。フランス語にはこのような形容詞はない。OEDによれば、英法では1849年初出で、riparian possessorsという句がみえる。1886年の例ではriparian rightsという句がみえる。

116. salvage 「海難救助料」

もとの動詞はOF salverで、842年の初出である。名詞形はsauvetageで1773年の初出である。bateau de sauvetageのように使う。料金の意味はない。OEDによれば、英語では1645年の初出である。

117. seal 「印章」

捺印証書に必要である。俗ラテン語*sigillumに由来し、OF sealは1080年初出である。現代フランス語がsceauと綴るのは13世紀中ごろからで、seau(桶)と区別するためである。⁴¹⁾OEDによれば、英語では1258年の初出である。

118. settlement 「継承的不動産処分」

settleと-mentから成る。settleはOE setlanに由来する。-mentはラテン系名詞語尾である。OEDによれば、“fixing”義で1648年初出、英法用語として1677年初出である。

119. stakeholder 「賭物預り人」

stakeとholderの合成語である。OEDによればstakeの語源は不詳。

120. statute 「国会制定法」

ラテン語の動詞statuereの過去分詞statutusに由来する。OFではestatutが1250年初出。OEDによれば、英語では一般的に法の意で1290年に初出し、英法用語としては1386年ころChaucerに初出する。⁴²⁾

121. subpoena 「罰則附召喚令状」

文章の冒頭にsub poena “under penalty”の句が記されるのでこの名がある。法律ラテン語の一。OEDによれば、英法では1422-61の初出である。

122. surety 「保証人」

OF seurteは1160年の初出である⁴³⁾が、フランス語

が保証人の意味をもったことはない。フランス語では保証人のことをgarantという。OEDによれば、英語では“safety”の意味で1300年初出、英法では1482年の初出である。フランス語の方が純粋な語義を保っている。

123. testate 「死ぬ際に遺言を残している」

ラテン語の動詞testari “make a will” の過去分詞testatusに由来する。OEDによれば、英法には1475年に初出している。

124. testator 「遺言者」

Dauzatによると、フランス語では1200年ころtestateurが初出している。もととなったのは法律ラテン語testatorである。OEDによれば、英語では1306年仏文初出、1447年英文初出である。

125. tort 「不法行為」

tortはラテン語torquere “twist” の過去分詞tortusに由来する。Dauzatによれば、tortは980年ころフランス語に初出し、ねじれたものを表わした。転じて、法律や正義に反する行為を表わすようになった。OEDによると、英法には1586年に初出している。

126. unenforceable 「強行不可能」

契約、令状、判決が欠陥のために陥る状態を表わす。un-とenforceableから成る。un-は英語の接頭語である。Greimasによれば、OF enforcierが1160年に初出ししている。AFにもaforcer, enforcerがある。現代フランス語にはforcerしかない。OEDによれば、英語ではunenforceableが1589年に初出している。

127. unlawful 「不法な」

法を犯すの意である。illegal「違法な」(禁を犯す)と区別するのに使う。OEDによれば、unlawfulはlawfulとともに1300年までに英語に初出している。純粋な英語である。

128. void 「無効な」

ラテン語vacuusがOF vuit, vuide(1155年初出)となり、次いで英語となった。現代フランス語は vide。OEDによると、中味がない意で英語には1290年ころ

初出し、無効の意では1433-4年に初出している。フランス語は中味がないの意に固執しており、無効の意は non valableで表わす。

129. voidable 「無効とすべき」

OFでは動詞vuidierが1160年に初出しており、これがME voudenとなった。voidableはその形容詞である。OEDによると、英法には、1485年に初出しており、voidと区別するときに使う。

130. volunteer 「無償取得者」

不動産、役務、債務について言う。Dauzatによれば、フランス語volontaireは志願する(人)の意で1538年に初出している。OEDによれば、英語には1600年ころ「義勇兵」の意で初出し、英法には1744年に初出している。

131. wager 「賭博」

Webster 3rd editionによれば、ONFの動詞 wagier “pledge”の名詞がAF wageureで、これがMEでwageour “bet”となり、今はwagerとなった。ONFのw-はフランス語ではg-となるので、フランス語にも動詞gagerと名詞gageureがある。OEDによれば、“pledge”の意で1306年に英語に初出し、“betting”の意で1548年までに初出している。

132. waste 「不動産毀損」

Webster 3rd editionによると、ONF wast “wild”からME wasteができた。OEDによれば、AFにbref de wastがあり、英語ではwrit of wasteという。AF文献に初出(年不詳)したのち、1414年に英法に初出している。フランス語ではendommagementという。⁴⁵⁾

133. writ 「令状」

OEの動詞writanに関連する名詞である。OEDによれば“writing”の意で900年までに初出し、“written command”の意で1400年までに初出している。この間AF文献ではbrefを使った。(完)

文 献

- 1) Stone, Louise & Rothwell, W. (Eds.): *Anglo-*

- Norman Dictionary*. London. The Modern Humanities Research Association. 1977- (本稿ではAnglo-NormanはAnglo-French, 略してAFと言いつ換える。)
- 2) *Year Books of Edward II* (1307-1327) XXV89.
 - 3) *The Penguin Guide to the Law* によると、Information is a statement placed before a magistrate which informs him of the commission of an offence...である。AFのinformationの法律用法は密告であるから、AFとは関係ない。
 - 4) *lexis*. Librairie Larousse. 1975による。
 - 5) OEDによる。
 - 6) *lexis*による。
 - 7) *The Penguin Guide to the Law*による。
 - 8) *lexis*による。
 - 9) StoneとRothwellによる。
 - 10) StoneとRothwellによる。例文は、il ne poet user nul bref de droit saunz le issue. (嗣子がなければ土地回復のために権利令状を行使することはできない。) *Year Books Edward II* (1307-1327) i 17.
 - 11) *lexis*による。
 - 12) StoneとRothwellによる。
 - 13) Dauzat 著 *Nouveau Dictionnaire etymologique et historique*. 1964による。
 - 14) StoneとRothwellによる。例文はlequel certefia ce ynz q' il fut mulieré, et issint sa legitimacion prové as toutz jours vers toutz. (かれはこの本廷でかれが嫡子であることを証明した。かくして嫡子であることは永久的に万人に向けて証拠立てられた。) *Year Books 11-12 Edward III* (1327-77) 231.
 - 15) StoneとRothwell及びOEDによる。
 - 16) *The Penguin Guide to the Law*による。
 - 17) *The Penguin guide to the Law* による。
 - 18) 英文初出はChaucerの *Reeve's Tale* 59で、The person of the toun, for she was feir, In purpos was to maken hir his heir Bothe of his catel and his messuage. (街の教区牧師は20才になった孫娘が美人であったので、自分の所有する家畜と家屋の両方の相続人にしようと決意した。)
 - 19) StoneとRothwellによる。
 - 20) StoneとRothwellによる。
 - 21) StoneとRothwellによる。例文は, certains tenementz en H, queles fount la moyté del Manoir de H. (Hのいくつかの小作地はHの荘園の二分の一をなす。) *Lib Cust* 460.
 - 22) *lexis*による。
 - 23) OEDによる。
 - 24) *lexis*による。
 - 25) Dauzatによる。
 - 26) StoneとRothwellによる。
 - 27) StoneとRothwellによる。
 - 28) Dauzat, *lexis*による。
 - 29) StoneとRothwellによる。
 - 30) *lexis*による。
 - 31) Dauzatによる。
 - 32) Dauzatによる。
 - 33) Dauzatによる。
 - 34) *The Merry Wives of Windsor* iv.v.21-4 Host. Here's a Bohemian-Tartar carries the coming down of thy fat woman. Let her descend; my chambers are honourable. Fie! Privacy? Fie! (旅宿ガーター館の主人: どう猛な御仁が太った御婦人をお待ちかねですよ。下へ来さして下さい。部屋は汚してはしくないもんだ。えい、えい。いちゃついているんですかい。)
 - 35) *lexis*による。
 - 36) *Shipman's Tale* 330-1: He was bounden in a reconyssaunce, To paye twenty thousand sheeld anon. (商人は誓約にしばられており、2万クラウンをすぐに支払わねばならなかった。)
 - 37) *lexis*による。
 - 38) Dauzatによる。
 - 39) Greimasによる。
 - 40) Greimasによる。
 - 41) Dauzatによる。
 - 42) *General Prologue* 327: Every statut koude he pleyn by rote. (この法律家はすべての国会制定法をそらんじていた。)
 - 43) Greimasによる。
 - 44) StoneとRothwellによる。
 - 45) *lexis*による。

Abstract

A Study of the Medieval French Origin of the Legal Jargon of English Law (2)

Katsuzo HOYA

I elucidated in pages 89—98 of Volume 4 of this Bulletin, 1987, how the legal jargon of English Law generally looks un-English by investigating its origin. I used *Legal Jargon: An A—Z Guide*, an appendix to John Pritchard's *The Penguin Guide to the Law*, second edition, 1985, and treated the first 66 words out of the 133 single words.

In this second and last installment I treated the remaining 67 words. The conclusion is the same as before, that Anglo-French is much oftener involved in them than has so far been elucidated. (Concluded)

Department of Foreign Languages (English)